令和８年度 中学生の「税についての作文」入賞作品

【川上村長賞】



「税金から幸せを考える」

川上村立川上中学校　３年　川上　萌音

　世界一幸せな国を知っているだろうか。それは、北欧にあるフィンランドだ。国連の関連機関が発表する「世界幸福度ランキング」で九年連続一位に選ばれている。しかし、調べてみると、消費税が二十五・五パーセント、日本の二・五倍もあったり、所得税や住民税も日本より高い。その事実を知って、なぜフィンランドの人々は、税金が高くても幸せといえるのだろう。という疑問がうかんだ。

　そこで、フィンランドの税金の仕組みや社会について調べてみることにした。すると、フィンランドは、日本と受益と負担のバランスが大きく異なることに気付いた。受益と負担のバランスは、受けるサービスの量と国に支払う税金のバランスのことである。日本は、負担に比べて社会保障などの福祉が大きい「中福祉・低負担」なのに対し、フィンランドは、福祉も大きく、負担も大きい「高福祉・高負担」である。これは、税金が高い代わりに、医療費が原則無料だったり、大学までの学費がかからなかったり、仕事を失ったときのサポートが手厚かったりする。フィンランドだけでなく、他の先進国でも、この形をとっている国が多い。そして、日本の「中福祉・低負担」には、福祉と負担のバランスがとれず、国の借金が増え続けるという問題があり、日本でも「高福祉・高負担」に切りかえる動きが出ている。しかし、増税に対する反対が強く、あまり進んでいない。日本とフィンランドでは、国民負担のあり方以外にも、税金の使われ方の透明性と、政治家のあり方も大きく異なる。私は、この２つが日本とフィンランドの払う税金への納得感が違うポイントだと思う。まず、フィンランドでは、デジタル化が進んでいて、自分が払った税金が、何に使われたのか、見える化されている。さらに、政治家への視線も厳しく、過去には、首相が朝食代の数千円を公費で支払ったことに対し、国内で大きな批判が起きたこともある。国をひっぱっていく人のあり方を国民が監視し、信頼できる政治になっていく。それに対し、日本は、自分が支払った税金が何に使われたのか分からない。そして負担と福祉のバランスが個人で偏っていると感じやすい。何よりも、ニュースになる頻度の高い、政治家の炎上や、汚職、会議の様子に不安や不満をもつ人も多いだろう。これは、政治家だけの問題ではなく、私達も政治への「受け身」の姿勢を変える必要があると思う。今回、世界一幸せな国フィンランドと、私達の暮らす国日本を、税に関する視点で比べていくと、これからの税がどうあったら、今より幸せになれるのか、と考えを深められた。これまでは私は、税金をただ「払わなければいけないもの」としか思っていなかった。しかし、税について調べてみると、とても重要なものだと分かった。これからは、税金を納める一人として、使われ方も納める理由も考えながら生活していきたい。